

# 雄幹戸志芳

## ギター・リサイタル

### ●スペイン近代の夕

曲目

アルベニス●マラゲーニャ作品165●

●アストゥリアス●

S・デ・ラ・マーサ●ペテネーラ●

●ロンデーニャ●

ロドリゴ●祈禱と舞踏●

モムポー●コムポステラ組曲(全曲)

ピポー●唄と踊り第1番●

ファリャ●ドビュッシー讃歌●



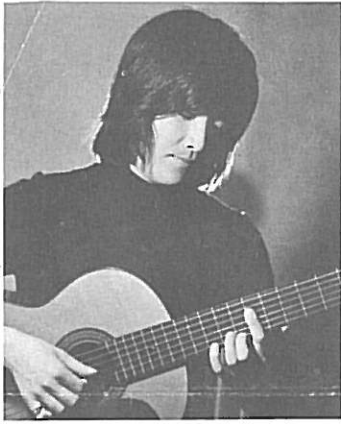
11/27<sup>土</sup>

6:30P.M.開演

石橋メモリアルホール

入場料・1,800円(全自由席)

お問合せ 高柳音楽事務所 ☎03-353-2242



# 芳志戸幹雄 スペイン近代を弾く



## ⊗芳志戸幹雄スペイン近代を弾く

ギターという楽器は、まだまだ、その可能性のすべてが開発されてはいません。その魅力のすべてが引き出されてはいません。そうした状況の中で、芳志戸幹雄の創り出すギター音楽は、その音色において、その奏法において、そのレパートリーにおいて、エポックメイキングな魅力を湛えているのです。

一音たりとも無駄に響かせることのない、選び抜かれた音の表出、ときには様式を超え、実体としての音に没入していくその態度……今まで、このようなギタリストが日本に存在したでしょうか？

今回のリサイタルは、スペイン物を特に積極的にとりあげてはこなかった芳志戸幹雄が、初めて〈スペイン近代〉の作品に挑戦するタベとなります。

日本のギター界にとっても、また、ギター・ファンにとっても、スペイン近代の作品は、過去も現在も、もっとも愛されているレパートリーの一つに違いありません。

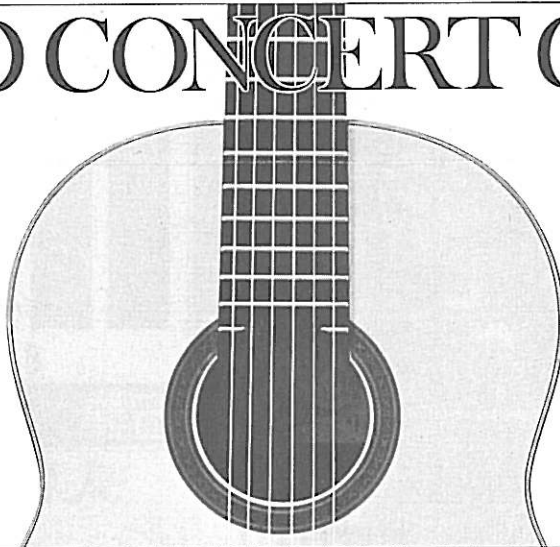
芳志戸幹雄は、ヨーロッパでの月日の多くをスペインで学んでいます。だからこそ、彼の内部における“スペイン”とその音楽を、ギターという楽器を通じて、音として具象化することに、とまどいと抵抗を感じる部分を持っていたのでしよう。

スペインから帰ってのこの数年間は、そのとまどいと抵抗が、1つの背景の中に沈んで行くのを待っていたのではないのでしょうか……そしていま、“芳志戸幹雄のスペイン”を、彼のギターの中に垣間見ることができます。

## ⊗芳志戸幹雄略歴

1947年生。三木理雄、小原安正、セゴビア、J・トーマス、デ・ラ・マーサらに師事。1968年から70年にかけてスペイン留学。本年4月からNHK教育テレビ「ギターを弾こう」の講師を勤めているが、その教授法のユニークなことでも話題を呼んでいる。

# GRAND CONCERT GUITAR



音にだけは、かぎりなく贅沢でありたい。

ヤマハグランドコンサートギター。

GC-30A、30B、30C＝¥300,000

GC-10M、10S＝¥100,000

GC-15M、15S＝¥150,000

GC-20M、20S＝¥200,000

**YAMAHA**  
日本楽器製造株式会社